2024.12.1 東京大学大学院教育学研究科附属心理教育相談室
第20回公開講座「学校における心理支援のこれから
～チーム学校の持続的な活動をめざして～」

チーム学校におけるスクールカウンセリングのこれから
～児童生徒とのパートナーシップをめざして～

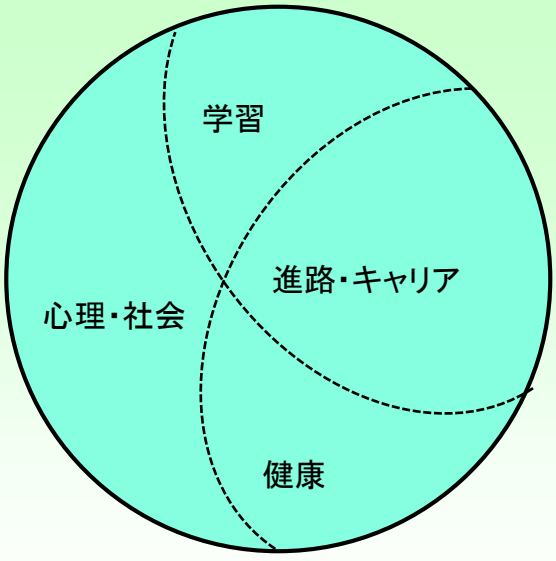
東京成徳大学　石隈利紀

公認心理師,学校心理士SV
X(旧Twitter) ・HP

1-1 学校心理学とは

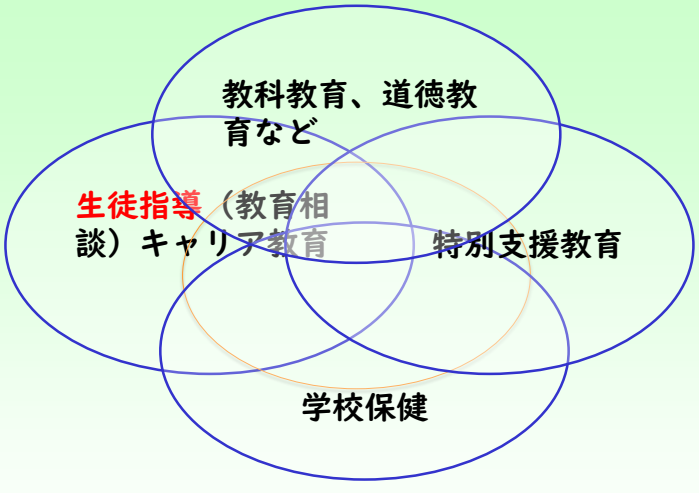
心理教育的援助サービスの理論と実践：
一人ひとりの子どもの学習面、心理・社会面、進路・キャリア面、健康面など「学校生活」における問題状況・危機状況での援助と、子どもの成長を促進する教育活動。

「スクールカウンセリング」は、教師、スクールカウンセラーらのチームによる心理教育的援助サービスの活動や体系であり、生徒指導（教育相談）、特別支援教育、学校保健、スクールカウンセラーの活動を含む（石隈・家近,2021）



1-2 トータルな存在である子ども：4つの側面
（石隈・家近,2021）

3



1-3　学校心理学の領域

2-1 子どもの学校教育の背景：無痛文明

・森岡正博『無痛文明論』トランスビュー：
「苦しみを遠ざけるしくみ」 ・・・痛みとつき合う困難さ
⇒ 快を求める・・・面倒なことをさける
当事者意識の低下

★子どもが、苦しみや悩みとつきあいながら
成長するのを援助する
★社会の障がいが作った痛みは除く

5

2-2 学校教育の背景：コミュニティの今

・<u>農村型コミュニティ</u>
一体意識：bonding（結合）
・<u>都市型コミュニティ</u>
個人ベースの多文化集団：bridging（橋渡し）
（広井良典「コミュニティを問い直すーつながり・都市・日本社会の未来」　ちくま新書　2009）
⇒「どう自分と異なる人と共に生きていくか」を学ぶ
多様性との共生は快ではない。個と個のつながりは未学習！
エコーチェンバー、フィルターバブル

6

2-3 社会モデルの次：第三のモデル

医療モデル→社会モデル→第三のモデル

当事者モデル・共同体モデル（伊藤・熊谷他,2019）

第三のモデルは社会モデルを否定せずに、「個人の側も変わることができる」と考える。

★自分の問題を受け入れて「幸せに楽しく生きるためには何をしたらいいのかを、仲間とともに一生懸命考える」

伊藤伸二　吃音のセルプヘルプグループにおける語り

7

2-4 当事者研究

自分と似た仲間との共同研究を通じて、等身大の＜わたし＞を発見すること、そして、そんな自分を受け容れるものへと社会を変化させることを通じて、回復への導く実践

（熊谷晋一郎　「当事者研究ー等身大の＜わたし＞の発見と回復岩波書店）

★北海道　べてるの家

日本吃音臨床研究会

向谷地生良・伊藤伸二　「吃音の当事者研究～どもる人たちば「べてるの家」と出会った」金子書房

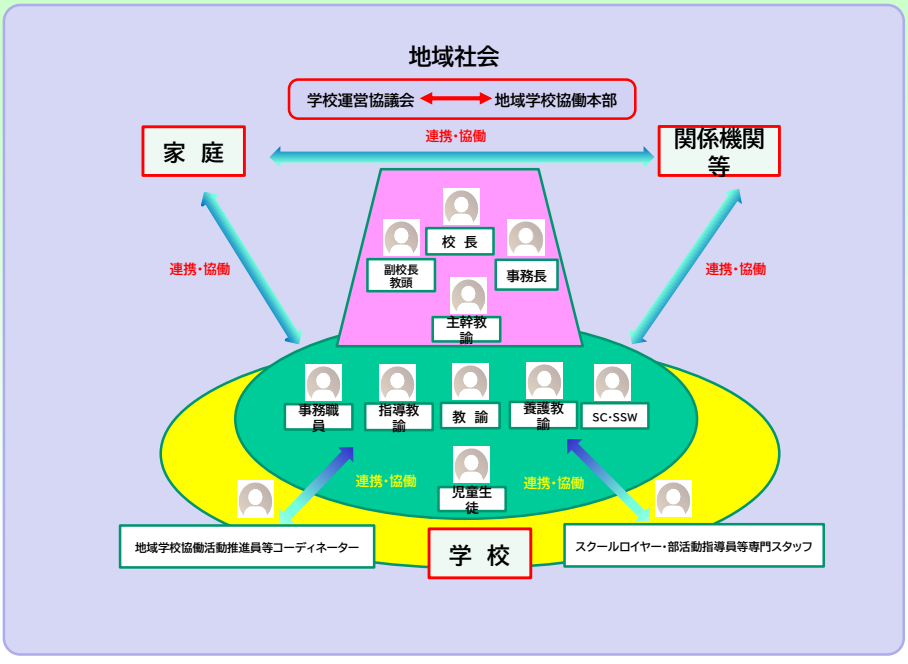
・「自立」とは依存先を増やしていくこと」
・正解を教えるのではなく「一つの案」を提示する

・大人も人やものに頼る姿を子どもに見せることで「自分一人で抱え込まなくていいんだ」と、子どもが学ぶ

熊谷晋一郎

3-1　スクールカウンセリングのこれから：『生徒指導提要』（2022）

・2010年（平成22年）以降10年以上経過
①社会の変化、子ども・家族の変化
2011　東日本大震災
2020-新型コロナウイルス感染症パンデミック
2022-ウクライナへの軍事侵攻
②教育に関わる法律の制定
③生徒指導を支える学問の成果
　　学校心理学、発達心理学、キャリア教育



3-2『生徒指導提要』の改訂の柱

- （対象）<u>すべての子ども</u>の発達支援 ：
  学習面、心理面、社会面、進路面、健康面
  多様な子ども（個性、教育ニーズ；背景）
  子どもの人権

- （場面）<u>学校教育すべての場面</u>で
  授業、道徳教育、特別活動、学校保健など

- （責任）<u>チーム学校</u>を通して

3-3　生徒指導の定義

・生徒指導は、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。

・生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。

①特定の課題を想定しない場合　　「支える・支持する」

学習面、心理面、社会面、進路面、健康面の包括的発達

②特定の課題＝発達の過程で苦戦「指導する」「援助する」

①＋②　「支援する」　生徒指導＝生徒の支援

★指導の限界あるいは不適切な場面への気づき

13

3-4　生徒指導の目的

・生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。

★多様性（個性：教育ニーズ、背景）の尊重を宣言

個性（その子どもらしさ）の伸長（2010）

→個性（特性や発達の状況も）の発見とよさや可能性の伸長

個性の定義：強いところ・弱いところ・育ちつつあるところ

★Well-Beingを支える、「個性」の発見を支える

3-5　子どもの権利の尊重

・こども基本法　2022.6

「全ての子どもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ」

「権利の擁護が図られる」社会の実現

「自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会が確保されること、さらに意見が尊重されること」

☆子どもの権利のアドボカシー

3-6　子どもの言動の理解

・子どもの言語や行動の理解

A　一人ひとりの子どもの特性や発達状況として理解し、意見表明として受け止める

B　子どもが何を言いたいのかを想像し言語化を援助する

例：授業中寝ている、リストカット、保健室に何度も来る

★子どもの言動の通訳の一人

4-1 児童生徒とのパートナーシップ

★児童生徒と教職員のパートナーシップとは、児童生徒が主体的に発達する過程を支える関係

・側においてもらう

・指導から支援へ

・パートナーシップを支える信頼関係

　教師・SCらへの信頼（この人なら）

　協働作業（語り合う）への信頼

　　（SCや担任の全員面接は有効）

4-2 パートナーシップの課題

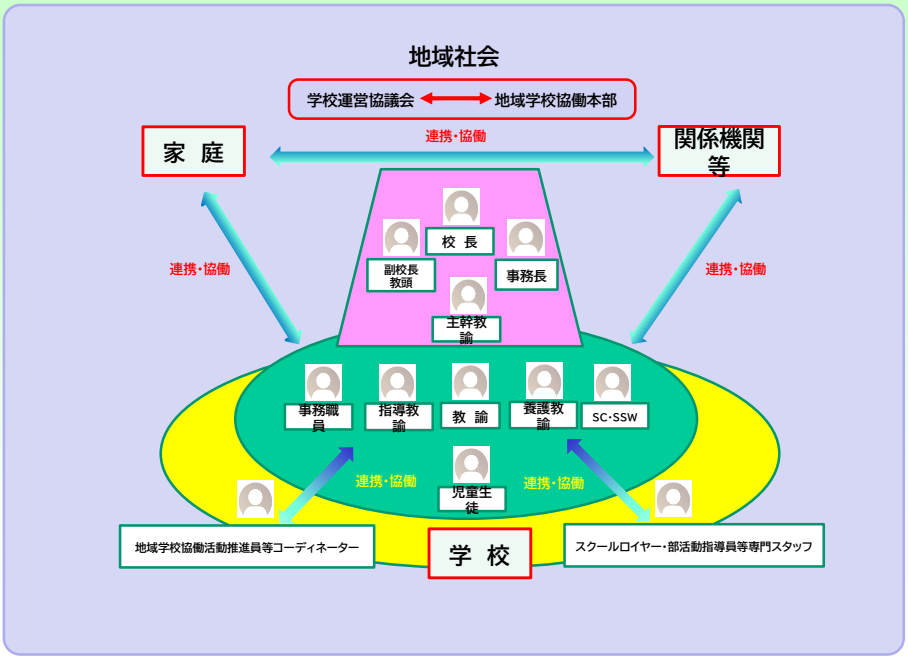
・指導することで子どもを変えるというイラショナルビリーフからの解放

・教職員、保護者が、児童生徒の通訳、アドボケイトになる

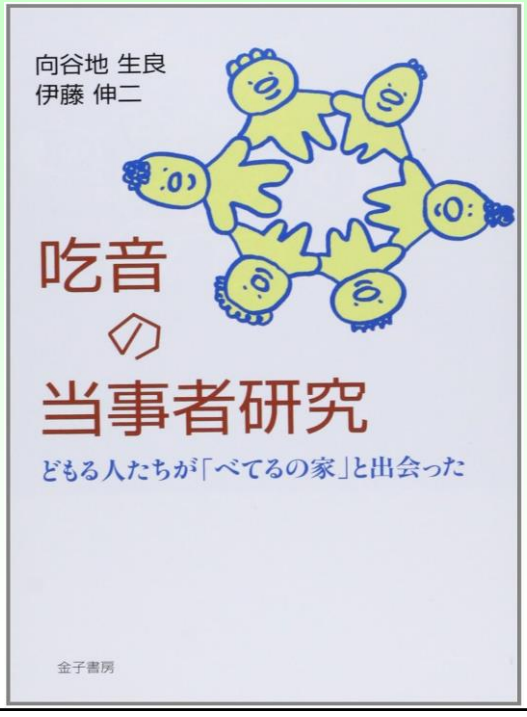
・保護者を含む援助チームと子ども参加型援助チーム

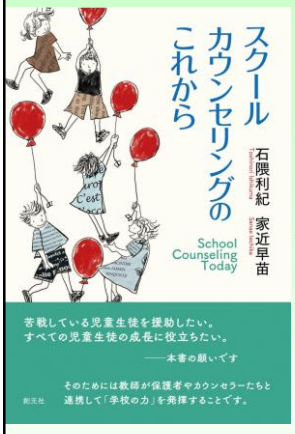
・依存先を増やすシステム（学年担任制など）

★「一流の教師」がいる学校から「子どもと話ができる教師」が多い学校へ！


地域社会
学校運営協議会
地域学校協働本部
連携・協働
家 庭
関係機関等
連携・協働
連携・協働
校 長
副校長
教頭
事務長
主幹教諭
事務職員
指導教諭
教 諭
養護教諭
SC・SSW
連携・協働
連携・協働
児童生徒
地域学校協働活動推進員等コーディネーター
学 校
スクールロイヤー・部活動指導員等専門スタッフ

当事者研究
等身大の〈わたし〉の
発見と回復
Kumagaya Shin-ichiro
熊谷晋一郎
岩波書店


向谷地 生良
伊藤 伸二
吃音
の
当事者研究
どもる人たちが「べてるの家」と出会った
金子書房

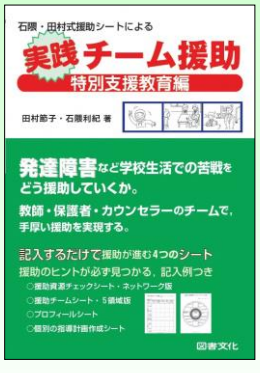


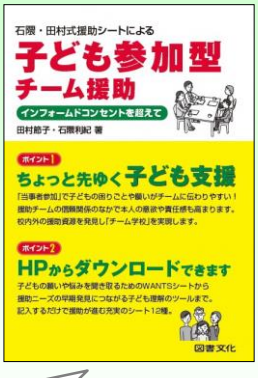
「生徒指導提要」を学ぶ1冊！
（1600円＋税）

1. スクールカウンセリングとは
2. 学校教育の現場を生かして
3. 子どもの援助ニーズに応じて（重層的支援）
4. 援助するスキルを磨いて
5. 子どもの苦戦に応じて
（いじめ、不登校、発達障害など）
6. チーム学校で

当事者である子どもとのパートナーシップで、
子どもの成長を援助する。
教師・スクールカウンセラー・保護者らの
チーム援助。

「チーム援助」を学ぶ3部作！





「子ども参加型」の当事者を中心にした支援

さらに学ぶために

○一般社団法人「日本学校心理学会」（HP）
教育相談担当、養護教諭、特別支援教育担当、ＳＣ、
ＳＳＷらによる相互の学びの場。研修会・大会・ニュースレター・
学会誌。推薦者：石隈

○一般社団法人「学校心理士」認定運営機構（HP）

受験資格
①修士（学校心理学関連・教職大学院・公認心理師関連）＋
１年の援助サービスの経験
②５年以上の援助サービス（教育相談等）の経験等
③３年以上の援助サービスのマネジメント（指導主事等）の経験
④公認心理師

23